

『技術マネジメント研究』22号 執筆要領

2018年5月改
2021年6月改

「技術マネジメント研究」投稿規定に加えて、以下の注意事項を遵守すること。

1. 【論文の表記事項】

次の事項を表記すること。

- ① 論文題目（和文 及び 英文）
- ② 執筆者名（和文 及び 英文）
- ③ 執筆者所属機関名・部局名（和文 及び 英文）
- ④ 論文要旨
可能であれば和文と英文の2つをつけることとするが、どちらか一方でも構わないこととする。
 - A) 和文「要旨」600字前後
 - B) 英文「ABSTRACT」300 words以内

2. 【頁数について】

A) 邦文：各ページ48字×39行、

論文・研究ノート・資料は15ページ以下、全体で25,000字程度以下、書評は4,000字以下とする。また、論文要旨は5ページ以下とする。

B) 英文：各ページシングルスペース39行、

論文・研究ノート・資料は15ページ以下、全体で10,000語程度以下また、論文要旨は5ページ以下とする。

※これを超える原稿の投稿については、編集委員会が短縮や一部削除を求めることがある。

3. 【その他の体裁】

A) 体裁は横書きとし、全てのページに通し番号を振ること。

B) 原則としてMicrosoftのWordで原稿を作成し、シングルスペースで入稿する。

C) 常用漢字・現代仮名遣いを用いること。

D) 英数字は、半角で統一表記する。

E) ひらがな・カタカナ等は、全角で表記する。

F) 本文、脚注、参考文献の欧文字体はTimes New Romanで統一すること。

G) 一段落毎の文頭は、1字下げることとする。

H) ー（音引き）と—（ダッシュ）の使い分けに注意する。音引きは—（ダッシュ）ではなく、ー（音引きの記号）を使用すること。

I) 表のキャプションは表の上部に、図のキャプションは図の下部に据えること。

4. 【付属情報の記載箇所】

- A) 本文以外の付属情報は、謝辞、注釈、引用文献、参考文献の順番で論文本体の末尾に記載すること。
- B) データファイル作成時、注釈、引用文献及び参考文献は論本文と同一ファイルに含むこと。

5. 【注釈】

- A) 注釈は文末注とし、本文中の該当箇所にアラビア数字・右側片括弧の通し番号 (1) 2) 3)....) を記すこととする。
- B) 注釈の利用は、最小限にしなければならない。

6. 【引用・参考文献】

- A) 他の著作物からの引用には出典を明記し、必要な場合には、投稿までに著作権者の了解を得なければならない。
- B) 引用文献及び参考文献は、本文末に一括してリストを作成し、日本語・外国語ともに第一著者名のアルファベット順に記載することとする。
- C) 同一著者の論文・著作等は、刊行年順とし、同一年に同一著者の論文・著作等が刊行されている場合には、「1999a」「1999b」のように年号の後にアルファベットで順序をつけて区別することとする。

7. 【本文中での引用表記】

- A) 本文中で参考文献を引用する場合には、「野中 (1976)」、「野中・加護野・小松・奥村・坂下 (1978)」、「Imai, Nonaka and Takeuchi (1985)」のように、著者の姓に続けた括弧内に年号をアラビア数字で記入することとする。
- B) 著者が2名の場合は、2回目以降の引用も、「竹内・野中 (1986)」、「Nonaka and Takeuchi (1995)」のように連記することとする。
- C) 著者が3名以上の場合には、2回目以降の引用には「野中ほか (1978)」、「Imai et al.(1985)」のように、第一著者に続けて「ほか」(日本語の場合)、「et al.」(外国語の場合)を用いることとする。
- D) 括弧内の記述については、「……については既に論じられている (Imai, Nonaka and Takeuchi, 1985 ; 竹内・野中, 1986)」のように、著者名と年号を読点で区切ってまとめ、第一著者のアルファベット順にセミコロンで区切って記載することとする。
- E) 引用の方法は論文全体を通じて統一すること。

8. 【参考文献の記載方法】

参考文献の記載は以下の形式に従うこととする。

A) 書籍

野中郁次郎・加護野忠男・小松陽一・奥村昭博・坂下昭宣 (1978) 『組織現象の理論と測定』千倉書房.

→著者名 (発行年) 『書名』出版社.

Nonaka, I. and H. Takeuchi, (1995) *The Knowledge Creating Company: How Japanese Companies Create the Dynamics of Innovation*, New York: Oxford University Press (梅本勝博訳『知識創造企業』東洋経済新報社, 1996年).

→著者名.(発行年) 書名, 発行地:出版社
(訳者名『書名』出版社, 発行年)

B) 書籍の特定の章

竹内弘高・野中郁次郎 (1986) 「新製品開発の戦略と組織」今井賢一 (編著) 『イノベーションと組織』東洋経済新報社, pp.97-126

→著者名 (発行年) 「論文名」編著者名『書名』出版社, 掲載されている頁.

Imai, K., I. Nonaka, and H. Takeuchi, (1985) “Managing the New Product Development Process: How Japanese companies learn and unlearn,” In K. B. Clark, R. H. Hayes & C. Lorenz (Eds.), *The Uneasy Alliance: Managing the Productivity-Technology Dilemma*, pp. 337-375, Boston: Harvard Business School Press.

→著者名.(発行年) “論文名” In 編集者(Eds.), 書名, 掲載されている頁, 発行地:出版社

C) 定期刊行物

野中郁次郎 (1976) 「コンティンジェンシー理論の構造・展開・意義」『組織科学』第10巻第4号, pp. 15-25.

→著者名 (発行年) 「論文名」『雑誌名』巻号、掲載されている頁.

Nonaka, I. (1994) “A Dynamic Theory of Organizational Knowledge Creation,” *Organization Science*, Vol.5, No. 1, pp.14-37.

→著者名.(発行年) “論文名” 雑誌名, 巻, 号, 掲載されている頁.

<注意事項>

1. 欧文献

- i. カンマ(,)やピリオド(.)の後には半角スペースを一つ入れること。
- ii. 名字 (ファミリーネーム) が先頭に来ること。ただし、共著の場合、第一著者のみ。
- iii. ミドル・ネームやファースト・ネームはイニシャルに略すこと。
- iv. 書名と雑誌名はイタリック体にする。

2. 和文献

- i. カンマ(,)やピリオド(.)の後にはスペースを一つ入れること。
- ii. 論文名にはかぎカッコ(「」)、書名・雑誌名には二重かぎカッコ(『』)をつけること。

3. 共通事項

- i. アルファベット順に記載すること (欧文献・和文献共に)

9. 【その他】

提出した原稿による査読後の内容修正は原則として認められない。執筆者による校正は原則1回のみとする。この際、訂正が認められるのは、明らかな誤字脱字とレイアウトの崩れ、図表の読みにくさの改善のみとする。校正時に内容修正をした場合は、編集委員会の権限により採用が取り消される場合がある。

以上